

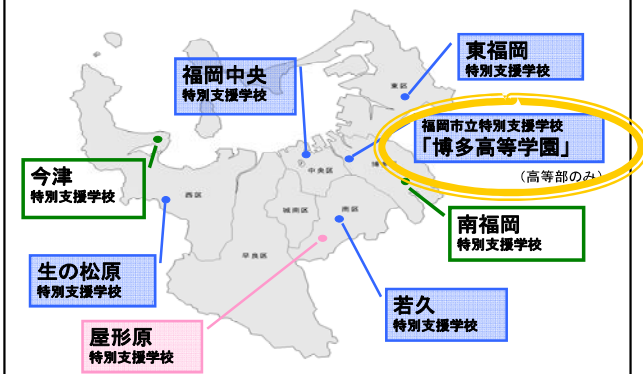
# 「博多高等学園」が移転整備開校しました！！

歴史ある博多部に所属する「博多高等学園」が、今年 4 月に博多区御供所町の旧校舎から、博多区下呉服町の新校舎へと移転整備開校しました。

新築の校舎は、全国初の都市型ビルの高等特別支援学校として、注目を集めています。

地域連携、企業連携を掲げる「博多高等学園」はどのような特別支援学校なのでしょうか。今回、4 月に就任した長谷川校長先生にお話を伺いました。

## ◆福岡市立特別支援学校(高等部)



- : 肢体不自由特別支援学校
- : 知的障がい特別支援学校
- : 病弱・知的障がい特別支援学校

### お話を伺ったのは…



長谷川 雅寛 校長先生

### 「貴校はどのような学校ですか？」

「当校は、軽度の知的障がいのある生徒を対象に企業への就労を目指して取り組んでいる**高等部単独設置**の特別支援学校です。特別支援学校高等部生徒の企業就労率の低迷、また、対象生徒増加の理由から平成 16 年 4 月に開校しました。今年、創立 10 周年を迎えますが、これまで 1 期生から 7 期生まで 200 名が卒業しています。」



↑移転整備開校した「博多高等学園」外観

### 「企業就労を目指し、どのような取組を行っていますか？また、新校舎の特徴を教えてください。」

「家庭・地域・企業とともに企業就労を目指す学校として、従来の学校完結の教育から脱却し、実際の現場を踏まえた教育活動へと展開しています。学校内の教育だけでは、企業現場で求められる力の育成が難しいことから、特に、時期や回数を問わない**現場実習**に力を入れています。また、**地域連携**を大切に、地域の清掃活動や地域行事等への参加・協力を行っています。新校舎では体育館の夜間休日の地域開放、また、“カフェ桐のはな”で月 2 回程度、生徒が作ったパンやケーキの販売、ドリンクの提供等を行い、地域の方々と触れ合う機会を増やしていきたいと思っています。」(※“カフェ桐のはな”は、平成 25 年秋オープン予定)



↑スタイリッシュな外観とは対比的に、校内は木を基調とした、あたたかみのある空間

### 「今後、より力を入れたい取組はありますか？」

「卒業後就職することも大切ですが、就職後『**働き続けること**』つまり、定着率の向上が重要だと考えています。そのため、当校では、関係機関であるハローワークや福岡市障がい者就労支援センターと月に 1 回、連絡会を開催しています。主に 3 年生の就労に向けた活動の進捗状況や就労した卒業生の定着等について情報交換を行っています。今後も、**関係機関との連携**を組織的に行い、在校生へのきめ細やかな進路支援と卒業生へのフォローアップを行っていききたいと思います。また、可能な限り同窓会活動等に関わりながら、卒業生とその家庭の心の支えになりたいですね。」



↑地域清掃に取り組む生徒の様子。地域の花壇手入れ等も行っている。(写真左上) “カフェ桐のはな”は、地域の人々が行き交う大浜公民館前に併設(写真右上)



←アビリンピック(全国障害者技能競技大会)規定と同じ大きさで設計された清掃実習室。(写真左下) また、介護実習室も新設されている。(写真右下)